

1. 科目名 (単位 数)	心理学研究法演習 I (2単位)		
2. 授業担当教員	石川 清子、岡本 香、加藤 宏一、齋藤 瞳、若松 直樹、 新井 雅人、野口 理英子、後藤 進吾、鈴木 克也、他 *指導教員を一人選び、論文作成のための指導を受ける授業です	3. 科目番号	SPMP3370 PSMP3370
4. 授業形態	演習 (一部講義)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	心理学の基礎・応用分野における講義にて学習した内容を踏まえながら、心理学における主要文献の講読を行うとともに、文献内における重要ポイントを読み解き、他者に説明する力を身につける。この基礎として、学生自身が心理学の関連文献を検索することも学習の課題とする。さらに、各文献内における問題点を見つけ出し、どのような心理学的研究を行うことによって、その問題を解決することができるのかを考察する。演習形式により、最終的には、心理学研究における課題発見から研究計画までの流れを理解する。		
8. 学習目標	研究論文を作成するための文献研究を中心に学習し、自らの課題を発見し、研究計画を立てる。詳細については、担当教員が授業の中で提示する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	担当教員が授業の中で提示する。		
10. 教科書・参考 書・教材	担当教員が授業の中で提示する。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1. 研究論文を作成するための文献研究ができる 2. 文献研究の結果を元に、研究テーマを発見することができる 3. 研究計画を立てることができる ○評定の方法 学則で決められた単位取得の条件を満たしていること(3/4以上の出席)を前提として、担当教員の課した課題(先行研究レビューのレポート、卒業論文のための研究計画書等)の提出(100%)をもって成績を評価する。		
12. 受講生への メッセージ	担当教員が授業の中で提示する。		
13. オフィスアワー	担当教員が授業の中で提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
担当教員	授業内容		
石川 清子	<p>【授業概要】子どもを取り巻く環境に視野を向けた研究論文を丁寧に検証していく。従い、心理学における主要文献の講読を行うとともに、文献内容における重要ポイントを読み解き、他者に説明する力を身に着ける。この基礎として、学生自身が心理学の関連文献を検索することも学習の課題とする。さらに、各文献内における問題点を見つけ出し、どのような心理学的研究を行うことによって、その問題を解決することができるのかを考察する。基本的には演習形式により心理学研究における課題発見から研究計画までの流れを理解することを目指し、心理学研究法の新しいかたちとは何かを学習する。</p> <p>【研究領域】学校臨床心理学・自己価値・本来性・家族心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】 日常生活の環境の中から、当たり前のように疑問を持てるような感覚を大切にしていきたいと思えます。自己や他者の内面的な心の動きに耳を傾け、見つめる研究に興味のある人、量的研究のみならず質的研究に強い関心がある人に、参加していただきたいと思えます。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回講義にてお知らせします。</p>		
岡本 香	<p>【授業目的】社会心理学領域の研究について学ぶことを目的とします。具体的には、社会心理学の研究領域の中で受講生の興味のあるテーマに関する専門書および論文を講読することを通して、社会心理学の研究に必要な基礎知識と研究方法を学びます。</p> <p>【授業方法】毎回、受講生の興味のあるテーマに関する専門書および論文(以下、文献とする)について、受講生自ら検索した文献を熟読し、その内容をレジュメにまとめます。また、授業時に、先にまとめたレジュメをもとに、読んだ文献の内容について発表をし、他のゼミ生と議論することで、テーマに関する理解を深めます。</p> <p>【授業目標】受講生自身の研究テーマを決定し、研究計画書を作成することを目標とします。</p> <p>【研究領域】社会心理学、質問紙を用いた量的研究。</p> <p>【受講者へのメッセージ】授業に参加する前に、あらかじめ社会心理学の教科書等を読んだり、周囲を観察したりして、自分の気になるテーマについて目途をつけておいてください。ここでいう「目途」とは、「この領域の研究に興味がある」、「この理論について気になった」、「日常にみられるこの行動に違和感がある」というようなもので構いません。なお、研究を進めるのは受講生自身です。教員にできることは、アイデアを考えるためのヒントを提示することだけです。したがって論文検索の仕方やレジュメ作成や統計処理のためのPC操作など、1年次から3年次春期までに学んだはずのことを改めて手取り足取り教えることはしません。教員に教えてもらうことを待つ姿勢ではなく、自らが積極的に学ぶ姿勢で研究に取り組むことを求めます。</p> <p>【オフィスアワー】 第1回の授業内にて通知します。</p>		
加藤 宏一	<p>【授業目的】認知心理学または学習心理学の研究領域について学習します。また、こうした領域で実際に研究を行うために必要な実験心理学的手法やデータ分析法について学びます。</p> <p>【授業方法】認知心理学または学習心理学の様々な研究領域の中から興味のある書籍や論文を読み、レジュメ(要約)を作成してもらいます。また、周囲の人々を対象に簡単な実験を行い、演習を通して、研究計</p>		

	<p>画の設定、データ解析、小レポート作成などを体験します。</p> <p>【授業目標】研究計画の設定。文献購読を通して発見した課題を、実験的手法を用いて検証するための研究計画書の作成を目標とします。</p> <p>【研究領域】認知心理学または学習心理学の領域における実験的手法を用いた研究。(私自身は、感情と記憶、記憶の符号化(覚えること)と検索(思い出すこと)のメカニズム、メタ認知、忘却などのテーマに特に興味をもっています。)</p> <p>【受講者へのメッセージ】まずは、いろいろな文献を読み、興味のあるテーマを発見してください。そして、授業外でも自ら積極的に学習し、研究の楽しさ・難しさを知ってもらいたいと思います。文献購読に基づいて設定した仮説を客観的データによって検証するという科学研究の一連の流れを理解すること、卒業研究に必要なスキルを獲得することを目指します。</p> <p>【オフィスアワー】 授業にて通知する。</p>
齋藤 瞳	<p>【授業概要】心身医学や臨床心理学に関連した学術論文を講読し討論を行うことにより、研究論文の読み方、研究デザイン、研究方法に関する基礎知識を得る。の中で、自らの関心を絞り、学術的に新しい知見をもつオリジナルな論文作成を目指し、研究計画の立案を行う。</p> <p>【研究領域】心身医学、臨床心理学</p> <p>【受講生へのメッセージ】研究をする上で重要となる客観性や論理性は、日常生活における問題解決能力や自己管理能力につながります。授業で学んだことを日常生活にも応用し役立てることを目指しましょう。</p> <p>【オフィスアワー】 初回授業でお知らせします。</p>
若松 直樹	<p>【授業概要】高齢期にある人々やその家族(関係者)の心の健康について、受講生の問題意識にそって今後の研究の方向性を検討します。</p> <p>【研究領域】老年臨床心理学、老年学</p> <p>【受講者へのメッセージ】みなさんが大学を卒業したのち、心理臨床の道を進むにしても一般企業へ就業するにしても、みなさんがそれぞれの領域で実力を蓄積しそれを発揮するころまで、日本は高齢期の人口が最も多い時代を経過します。つまり、高齢期にある人々との関わりはいつも身近にあるということです。高齢期に関わる課題について問題意識をもつみなさんを歓迎します。</p> <p>【オフィスアワー】 別途連絡します。</p>
新井 雅人	<p>【授業概要】各自が興味のあるテーマを持ち寄り、それが臨床心理学においてどのように扱われてきているか、論文検索とブレインストーミングを通して探っていきます。まったく新しい発想でも構いませんが、おそらく先人が近い内容を研究していると思います。キーワードと論文が見つければ、それを手がかりに、自分の卒業研究を組み立てていきます。私のゼミでは、臨床心理学のテーマを扱った実験か調査をして欲しいと思っています。テーマをどのように研究に落とし込むかは、一緒に話し合ってください。</p> <p>【研究領域】臨床心理学(イメージ体験や、発話語彙の研究)</p> <p>【受講者へのメッセージ】卒業研究をするからには、そのピンポイントの領域には自分が一番詳しくなりたいというくらいの気持ちでいきましょう。それぞれの進度に合わせてサポートしていくつもりです。</p> <p>【オフィスアワー】 授業にて通知します。</p>
野口 理英子	<p>【授業概要】臨床心理学の研究について学びます。具体的には、各自が選んだテーマに関する専門書や学術論文を読み、まとめ、発表します。発表と討議を中心に進め、卒業研究のテーマを絞り、研究計画書を作成します。</p> <p>【研究領域】臨床心理学、認知行動療法</p> <p>【受講者へのメッセージ】これまでに受講してきた授業で触れたこと、日常生活で経験したことなどから、関心のあることをみつけて下さい。そのテーマについて論理的に考え、分析し、まとめていくことが目標です。</p> <p>【オフィスアワー】 別途通知します。</p>
後藤 進吾	<p>【授業概要】自身の興味関心のあるテーマが、心理学の領域でどのように研究されているのかを、書籍や論文を読み解き、知識として収集することから始めていきます。主に受講者が書籍や論文、気になりごとについてまとめ、それについてディスカッションをすることで理解を深め、卒業論文作成の基礎となる部分を固めていきます。</p> <p>【研究領域】臨床心理学、臨床動作学</p> <p>【受講者へのメッセージ】本や論文を読むこと、そこから得た知識をまとめることもそうですが、得た知識を用いて自身を振り返ることも、今後の人生において役立つ体験になります。この「心理学研究法演習Ⅰ」に限らず、知識を整理し自分のものにする思考を習得することを目指していきましょう。</p> <p>【オフィスアワー】 初回の授業でお伝えします。</p>
鈴木 克也	<p>【授業概要】受講生が興味を持っている領域の専門書や研究論文をまとめて発表していくかたちで授業を進めます。専門書や研究論文をじっくり読む体験を通じて、自分が専門にしたい領域の知識や研究方法が少しずつ自分のなかに蓄積されていくことを実感していただきたいと考えています。</p> <p>【研究領域】臨床心理学、保育施設における保護者支援</p> <p>【受講者へのメッセージ】卒業研究に取り組むためには、自ら進んで学ぶことが必要になります。それは決して楽なことではありませんが、とても大切なことです。「心理学研究法演習Ⅰ」を通じて、その第一歩を踏み出していただきたいと思います。</p> <p>【オフィスアワー】 別途連絡します。</p>